

交通対策特別委員会 行政視察報告

2015年7月8-9日 富山県魚津市、射水市
戸田市議会議員 金野桃子

1 富山県魚津市

人口：43,279人（平成27年6月現在）
面積：200.61 km²
一般会計予算：168億7千万円（平成27年度）
議員定数：18人



<参考：戸田市>

人口：134,057人
面積：18.17 km²
一般会計予算：479億2千万円
議員定数：26人

魚津市は、県東部に位置し、200平方kmの広大な土地に背後には北アルプスに連なる山岳地帯で、中心市街地を離れると谷が多く、谷ごとに集落があります。蟹気楼、ホタルイカ、埋没林が三大奇観で、海に見える蟹気楼をイメージした「ミラたん」のがキャラクターです。

また、2015年には北陸新幹線が開通し、今注目を浴びています。



▲全体図



▲埋没林



▲ミラたん



▲北陸新幹線

魚津市では、平成初期の頃に、11路線あった民間バスが9路線休廃止し（現在2路線）、将来の市内の公共交通のあり方の検討が始まりました。平成13年度より「公共交通（バス）活性化計画」を策定し、コミュニティバスの実験運行が開始されました。



▲参考資料（魚津市役所）

当初は、事業の目的を「中心商店街の活性化」とし中心市街地の空洞化等への対策に力を入れましたが、事前アンケートでは90%以上の方が「欲しい・利用する」と回答していたにもかかわらず、実際には利用状況は低く、翌年度以降に事業目的を「交通弱者等の交通手段の確保」に変更しました。

これに基づき、総合交通体系の確立を進めます。

<目的の変更>

中心商店街の活性化



交通弱者等の交通手段の確保

＜総合交通体系の確立＞

駅周辺については「市街地巡回バス」を回し、山間の谷の集落については「郊外地対策バス」を回します。この各集落の「郊外地対策バス」については、市民の皆さんによるNPO法人を立ち上げ運行を行うのが特徴です。

市が事業の実施主体となり初期投資等を行う一方、NPO法人が運行管理（運転手確保）、車両確保、業務員教育（確実な安全指導、管理）を行います。事業費については、NPO法人が事業費の3分の1を運賃等で収入を確保し、市が3分の2を支援します。

利用料金は、平成26年6月に値上げを行い（200円/回、回数券13枚2000円）としました。



▲総合交通体系の確立



▲コミュニティバスの路線図

NPO法人による市民バス運行をすることで、メリットとしては地域の一体感が醸成できる点、ほぼボランティアに近い形で運営しており経費を削減できる点である一方、デメリットとして若い世代の参画、安全運行管理体制への不安等が挙げられます。

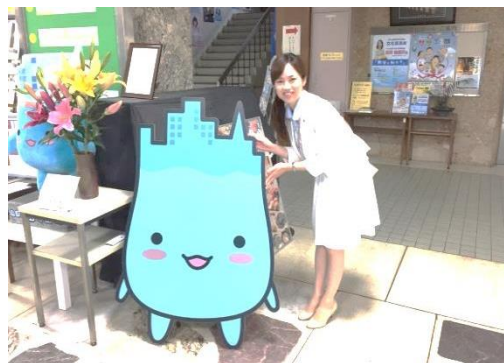
今後は安心安全な運行を将来的に継続し、かつ便利で多くの方の利用していただけるよう、長所を生かしながら永続的に運行を継続する体制づくりを行っていきます。各地区ごとの協議会とあわせて全市的な協議会を設立し、また、運行のみ交通事業者へ移管します（運行費用約550万円→約740万円）。

考察

視察に何う前は、「市民によるNPO法人がコミュニティバスを運営している」と聞き非常に驚き、どのような経緯、仕組みで運営しているのか不思議に思っていました。けれども、実際にお話をお伺いすると、「自分達の地域の公共交通手段を自分達で運営する」という熱意と責任で成り立っていることがわかりました。さらに事業費の3分の1を収入で確保していることにも驚きました。当初は市民の皆さんの熱意に支えられてきたバス事業も、今後は運行を交通事業者に移管したり、全市的な協議会を設立したりと、行政と民間との役割分担をし、組織に組み込むことで市民協働の公共交通体制の確立がなされていくと感じました。



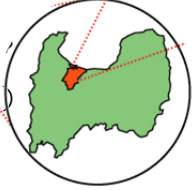
▲魚津市役所



▲ミラたん

2 富山県射水市

人口：94,404人（平成27年4月現在）
面積：109.43km²
一般会計予算：406億4100万円（平成27年度）
議員定数：22人



<参考：戸田市>
人口：134,057人
面積：18.17km²
一般会計予算：479億2千円
議員定数：26人

射水市は、県中央に位置し、半径約7kmのまとまりある地域であり、平成17年に1市3町1村で合併し今年で合併10年目を迎えます。古代から「出する水の地」と呼ばれ、「射水」と名付けられたといひます。射水のブランドロゴ「イミズムズムズ♪」が町を盛り上げています。富山湾では「富山湾の宝石」と呼ばれる白えびの他豊富な魚介類が採れます。



▲富山湾の宝石「白えび」



▲イミズムズムズ♪

射水市では、少子高齢化や北陸新幹線の開業など社会状況や公共交通環境が大きく変化する中で、市の公共交通の利便性を高め、将来にわたり持続可能な移動手段を維持するため、平成25年に公共交通施策の推進方向を示す「射水市公共交通プラン」を策定しました。

<公共交通施策の方針>

- ① だれでも利用しやすい持続可能な公共交通網の構築
- ② 快適な交通環境の整備
- ③ 地域交流を活発化する公共交通機関の充実



▲参考資料（射水市役所）

その中で中心となるが、コミュニティバス「きときとバス」とデマンドタクシーです。

「きときとバス」は、市町村合併を機に、コミュニティバス事業が拡大され、実証実験を経て平成19年度に本格運行を開始し、現在市全域を網羅するコミュニティバスとして運行されています。



▲きときとバス路線図

- 路線 全18路線
- バス停 200mから300mの間隔で370か所
- 運賃 200円/回（子ども半額）
- 運行費 約2億3248万円（運賃収入率19%）
- 利用者 38万1250人

デマンドタクシーは、以前コミュニティバスを運用していた際に、運行当初から利用者数が少ない4路線を見直したものの利用状況が改善されず、批判の声が上がる一方で高齢者の貴重な交通手段であることから、デマンドタクシーとして運用を開始しました。

- 運行方式 ドアツードア（予約制）・電話予約
- 運行日 毎日7時台～18時台
- 運賃 300円/回（子ども半額）
- 運行費 バス4路線負担金 約500万円
デマンドタクシー運行負担金 約1720万円
- 利用者 1万4358人（男女比1：9、60歳以上が9割）



▲デマンドタクシー

今後の課題としては、コミュニティバスについては、利用者ニーズの的確な把握と利便性確保に努め、乗車人数の少ない路線について見直しを随時行うこと等であり、富山県立大学と連携して社会実験として「モーニング快速便」を導入し、平成26年4月より本格運用したバスロケーションシステムのPRを行う取組みをしています。



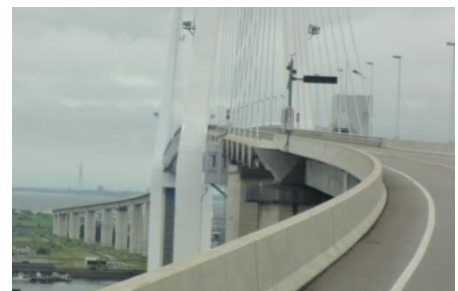
▲バスロケーションシステム

デマンドタクシーについては、運行経費については従来より約2000万円の経費削減効果が出ている点が評価できる一方、課題として運行単価の見直し、1台あたりの乗車人数を増やして運行台数を抑制する、ルール遵守の啓発、エリア拡大、デマンドタクシー運行基本方針の策定等が挙げられます。

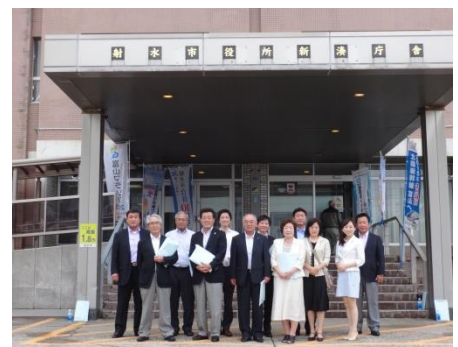
考察

射水市は合併や北陸新幹線開通といった大きな契機をきっかけに「射水市公共交通プラン」を策定しています。将来を見据えた公共交通についての方針を出すことで、今ある交通資源やニーズを把握し、「どの地域に、どのような公共交通手段を整備すればいいのか」のすみわけができたのだと思います。その一つが、コミュニティバスとデマンドタクシーの相互補完だと思っています。

地方では車社会であるうえに高齢化も進み、民間事業者が撤退する中で、行政が公共交通を整備する必要性は高まります。その中で利用者ニーズを的確に把握し、地域の特性に沿った公共交通を効率的に提供している点が勉強になりました。



▲新湊大橋（平成24年9月開通）



▲射水市役所

魚津市、射水市の皆さん
どうもありがとうございました。